

全体授業研究会 振り返りより⑤ -2年2組(10月24日)- 白島小学校 研修部

1 本時のねらいと本時の学習問題のつながり

- 本時のねらいと学習問題、「学び合い」の場の設定について考えさせられた。
- 問いの立て方、思考の仕方をもっと具体的に焦点化していくことが大切だと思った。人々の思いや工夫、工夫や努力など、言葉ではよく使うが、もっとそこを指導者が具体的にイメージしておく必要があると思う。
- 教師の問いかけの大切さ。途中で方向性を変えても。
- 「比較」は、分かりやすいが、「かかわる人々の思いや工夫」に流れを集約していくためのキーワードの見つけ方、学習の進め方を検討する必要があると分かった。

2 振り返りと知的な気づきの意味

- 見たこと、聞いたことは、自覚化されにくい。振り返り、交流することで、自覚化につながり、気づきの質が高まることを学びました。
- 単発の授業をすることが多いので、その後の振り返り、気づきの部分を大切にしていけないといけないことを学びました。
- 体験してワークシートに書いて終わるのではなく、体験したことを振り返り、表現した結果、気づきが生まれるのだと分かった。子どもは、体験のときに気づいているが、子ども同士で話し合っただけで考えることで、より質の高い気づきになることを学んだ。

3 認め合える関係性づくり

- 子どもたちがお互いに認め合いながらかかわっている姿がすばらしかった。
- 待つ中川さん…見つけられてよかったですよ。
- 子どもの言葉を大切に、ゆっくり待ってあげる。
- 子ども同士のやさしい言葉掛け。
- 友達の意見を聞き合う態度がとてもあたたかかったです。自然な形で子ども同士の励ましで、いろいろな子どもが安心して意見を出せたと思います。友達の意見に共感したり、一つの意見に対しての意見も出したりできていたと思います。

4 明日の授業に生かせること

- 「学校の図書館にも工夫していることがある。」ということにも気付いてもらえるよう、図書館運営をしていかなければと反省しました。身近な題材だったので、子どもたちが生き生きと活動している姿が印象的でした。下校指導のときにも、好きな本の話でもちきりでした。
- 板書…整理してあってよかった。写真があり、それが視覚支援となった。
- 単元を通してどのような力を付けたいか、よく考えていきたい。

5 協議会について

- 協議会で使ったシートは、分かりやすかったと思う。今後、継続していくと、もっとうまく使えるようになると思う。
- そろそろ、みんなでおはらいに行きますか！（←すみません。）
- 協議は、個人の質問を出した後でもよいのではないかと思います。いろいろな視点の方がいて面白いです。

徒然なるままに…8 お付き合いください！

— 「比較する」ということ —

全体授業研となると、何かが起こる…。これは、いよいよ問題です。授業日の私の運勢は、「困難も一発逆転！乗り越えられます。」だったんです。しかし、一発逆転されたのは、私の方でした。皆さん、本当に申し訳ありません。



さて、今回は、2学年の提案でした。低学年ブロックの先生方、大変お疲れ様でした。子ども達の、思いを自然に伝え合える空気、「がんばれ。」と仲間を力付ける姿から、温かい集団づくりができていたのを感じました。

今回の授業は、学校図書館とこども図書館を「比べる」ことを通して、運営の仕方の工夫に違いがあるのは、利用者の条件が違うからであり、ともに、利用者の条件に合わせた工夫をしていることに気付くというものでした。そこで、「比較」について考えてみたいと思います。

比較は、2年生ぐらいから十分に活用できる思考・認識の方法で、違いや対立することを考える「対比」、共通すること、ともに繰り返されていることを考える「類比」とがあります。対比は、事象の独自性を、類比は、普遍的、本質的な概念を明らかにすることに向いています。



ただ、闇雲に比べようとしても、どこを比べるのかを意識しないと、浅い思考になってしまいます。そこで必要なのが「観点」です。

比較する観点は、問いを思考・探究する切り口であり、何のために比較するのかと関係しています。この授業で言えば、二つの図書館を「働く人の工夫・運営の仕方」に着目して対比し、「なぜ、このような違いがあるのだろうか。」と問うことによって、利用者の数や対象に対応し、利用者が利用しやすくできる工夫をしていることに気付くことができると思います。「働く人の工夫・運営の仕方」を観点に、二つの図書館を対比することから違いを考え、それを通して、公共施設や図書館のあり方という共通点を明らかにすることになるのです。



本時では、中川先生が対比の観点を示し、板書で整理されていました。ここで子どもに観点を示すことによって、社会事象の見方を示すこととなります。これを繰り返すことによって、子どもは施設や人の営みを見るためには、数・量、仕組み・はたらき、人の思いなどに着目すればいいことを知ることができると思います。

今日の協議会では、先生方がねらいと問いの有機的なつながりや思考・探究するための着目点を意識して、子どもの思考を分析されていました。中川先生が「今日の？」を提示されたとき、「みんなで考えるんだから、？だ。」とつぶやいた子どもから、「今日の？」が意識されつつあるんだと思いました。こうして、少しずつ本校に、問いを大切に探究する学習が定着してきたのを感じ、ありがたく思います。今後も、探究する授業づくりを皆さんとともに進めていきたいです。よろしくお願いいたします。次回の全体授業研こそ、皆さんそろって行きたいと切に願う今日この頃です。